

東大和市少年軟式野球連盟
大会要項及び細則

A

平成25年3月吉日

審判部長 米島 弘志

近年の著しい少子・高齢化の波は本市・本連盟にも顕著に現れ、本連盟加盟各チームの選手層(特に低学年)にも偏りがあり、ワンサイドゲームが際立っている事と本連盟の青少年健全育成の目的及び本来の少年野球大会のあるべき姿【打つ・捕る・投げる・走る・楽しむ】を多くの小学生に均等に機会を与える事を主眼として、下記に平成25年度より大会要項及び細則を追加したく申上致します。

a).1イニング攻撃側点数制限【要綱追加】

・六(A)及び五年生(B):10点、四年生(C):8点。

※上記得点が入った時点で自動的に攻守交代。

但し、連盟本部が守備の時間が著しく長いと判断した場合は上記得点前であっても攻守交代があり得る。

b).タイブレーク方式(サドンデス)【細則】

1死満塁。回毎に監督による指名打者制で行う。以降は順次後位の打者。ランナーは指名打者の打順前3名。勝敗が決するまで行う。

基本、タイブレーク突入前の最終イニングの出場選手「攻守共に」で行い、守備側について

・投手は一人の打者に対して投球を完了した時点で交代可能(シフトの変更にて)。但し、明確な理由(負傷・急病等々)があると球審が判断した場合はその限りではない。

・野手はシフトの変更は可とするが交代は基本的に認めない。但し、明確な理由(負傷・急病等々)があると球審が判断した場合はその限りではない。

攻撃側

・代打、代走は認めない。但し、明確な理由(負傷・急病等々)があると球審が判断した場合はその限りではない。

c).試合の成立【細則】

A・Bクラスは90分または7回。Cクラスは80分または5回で行い、均等攻撃を基本とするが著しく点差が開きゲーム内容が一方的な展開の際は時間切れでの試合成立もありうる(例:先攻がリードの状態)。

試合成立の最低条件:両チーム共に1回表裏の攻守を行う。

d).監督・コーチによるコーチーズボックスへの立入許可【要綱】

下記の通りコーチーズボックスでの指揮・指示を可能とする。

※Aクラス:卒業記念大会で適用。但し、ベンチに3名以上のスタッフ(ユニフォーム着用)がいる事が条件。

不正行為「投球の高低の指示・相手選手を動揺させる行為・第三者が聞くに堪えない言動等」は禁止。審判のジャッジにも異議は唱えられない。

サイン及びストップ&ゴーの指示はボックスを出ない事とする。

☆目的は本来のコーチャーのあり方を指導者が身を持って選手に示す事。

☆打席内でサインを確認する事の向上を図る。

d).投手の準備投球数【細則追加】

全大会→初回及び救援投手は7球。以降の回は4球。但し、球審の判断により減らされる事もある。野手が救援投手になった場合は5球。

d).野手がインフェアの打球に触球後、ボールデッドゾーンへ打球が入った場合の処置

過去三年、審判の技術向上促進の為にテイク3を適用。平成25年度からテイク2へ。

【投手交代の規則】

- ・規則三・〇五「先発投手及び救援投手の義務」の項に、「すでに試合に出場している投手がインニングの初めにファウルラインを横切ってしまうと、その投手は第1打者がアウトになるか、或いは一塁に達するまで投球する義務がある。但し、その打者に代打者が出た場合、または、その投手が負傷または病気の為、投球が不可能になったと球審が認めた場合を除く」の条文を追加。

【打球のファウルの解釈】

- ・打球のファウルの解釈も変更。打者に自打球が当たった場合、これまでは片方の足が打席から出た状態ならファウルとなっていたが、アウトになる。

【打球のフェアの解釈】

- ・一、三塁線上を通過するゴロの打球はこれまでラインと外野側のベースの角との接点を通過しなければならなかったが、今回はベース上のどこか一点を通過すればフェアとなる。

【投手の軸足】

- ・アマでは投手の投球姿勢で軸足が投手版に触れていればOKと規則を改正→今までは、軸足がプレートの中に全て入っている事。

【危険なプレー】

- ・本塁上での体当たりや二塁上での危険なスライディングはアウトとするなど、ラフプレー禁止も徹底。